

地域経済をリードする 産業栽培メディア

コロンブス

MONTHLY COLUMBUS

ビジネスの新大陸を発見!

8

2016
AUG
700円

急伸するインバウンド市場を
取り込めるか!?

インバウンド 戦略

[特選銘柄]

オンライン旅行事業を土台として
拡大するインバウンド市場に挑戦

吉村英毅・株式会社エゴラブルアジア 代表取締役社長

[大地の顔]

アイメック栽培の濃厚なトマトを軸に
多様性に満ちた「湘南農業」を目指す

佐藤智哉・湘南佐藤農園 農園主

[元気のでる地域連携]

防災のまちを標榜し
オリジナルの缶詰を製造

高知県黒潮町

[特別編集顧問・浅野純次の
グローバル人間図鑑]

いかに訪日観光客の心を掴むか
これからの日本の
インバウンド戦略

新津研一

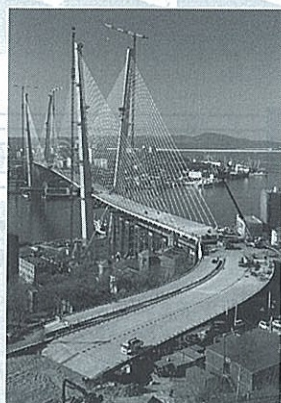
株式会社USPジャパン 代表取締役

北・海・道 — 苫小牧市

會澤高圧コンクリート(株)

寒冷地で培われたコンクリート技術に
海外各国が注目、環境配慮型の開発も

中小企業庁がこのほど公表した「はばたく中小企業・小規模事業者300社」(本誌7月号掲載)に選ばれた北海道企業のひとつが會澤高圧コンクリート(株)。創業81年、道内の重要なインフラ工事を数多く手掛けてきた老舗だ。選定理由は



大上用のコンクリートが使われる海上のコンクリート橋

中小企業庁がこのほど公表した「はばたく中小企業・小規模事業者300社」(本誌7月号掲載)に選ばれた北海道企業のひとつが會澤高圧コンクリート(株)。創業81年、道内の重要なインフラ工事を数多く手掛けてきた老舗だ。選定理由は

「北海道ならではの技術で海外市場を切り開いている」とのこと、そのあたりの事情について會澤祥弘社長に聞いた。

コンクリートは水とセメントの化学反応をもとに、砂利や砂などの骨材と化学添加物を混ぜて仕上げていく。一見カンタンそうに思えるが、その扱いは難しい。たとえば強度については、一般住宅の基礎部分に使われるもの(1平方メートルあたり約20ニュートン)から超高層ビルに使われる高強度コンクリート(100ニュートン以上)までさまざま。とくに難しいのが各種材料の配合設計と生成時の温度コントロール

太鼓判押します!!

中小企業庁
経営支援部技術・
経営革新課

日本経済の成長のために、中小企業者が主役として新たな取組に挑戦し活躍することが不可欠です。同社は一貫したコンクリートへのこだわりにより、常に時代を先取りした技術開発を行い、業界のパイオニアとして大きな役割を果たしており、今後の更なる成長を期待しています。

で、温度では一般に日平均気温が5〜25℃の範囲外の高温、低温下では強度にバラつきが出てしまうため、型枠内に流し込む打設時まで一貫した管理が必要になるといいます。こうした特徴について、會

社長の自社採点

企画開発	☆☆☆☆☆
営業力	☆☆☆☆
成長力	☆☆☆☆
収益力	☆☆☆☆
地域貢献力	☆☆☆☆
人材力	☆☆☆☆☆
専門性	☆☆☆☆
リサーチ力	☆☆☆☆
計画性	☆☆☆☆
リスクマネジメント	☆☆☆☆

■組織概要

所在地：北海道苫小牧市若草町3-1-4
 0144-3363131 / 設立1935年 / 資本金6390万円 / 従業員450名
<http://www.aizawa-group.co.jp/>



日本経済新聞社に勤務、東京本社を経て1994〜98年には米国で国連担当記者として活躍した経歴を持つ會澤社長

澤社長は「コンクリートはいわば処方箋ビジネス、モジュール化できない究極のすり合わせ産業」と表現する。ここに同社のノウハウが詰まっている。同社は2009年、モンゴル・ウランバートルに現地法人を設立した。モンゴルでは気温マイナス40℃にもなる厳冬期に生コン(凝固する前のコンクリート)を製造する技術がなく、建設工事の中断を余儀なくされてきた。しかし、同社には寒冷な北海道で長年にわたって積み上げてきたノウハウがある。具体的には「蒸気配管を施した寒冷地仕様のプラントで、骨材温度や練り水の温度を適正に保

ち、水和するセメントの自己発熱力を最大限引き出す混和剤を使用する」といった技術を持っているという。おかげで、一年を通じて生コンを製造できるようになり、モンゴルにおける冬季の生コン供給は同社の独占状態になっているという。また、反対に高温のところでは「液体窒素を用いて温度を下げるなどしてコンクリートを理想的な状態に保つこともできる」ので、東南アジアやアラブ地域からもオフアがあるそうだ。

さらなる展開に向けた取り組みとしては昨年10月、「硬化がはじまる時間を自在にコントロールできる高機能・高耐久コンクリート」を開発。「PMP」と呼ばれる特殊なセメントペーストを先行生成して生コンを仕上げる分割練り製法で、水和反応を数日間停止させておき、生コンを使用したときにミキサー車の傾胴ドラムに所定の回転を加えて硬化を開始させることができるというもの。この製法のおかげで建設現場の生産性向上のみならずコンクリート生成から施工までの二酸化炭素発生量も大幅に削減できるようになったという。真つ向から開発ニーズに立ち向かう企業マインドはまさにはばたく中小企業といえるだろう。

社長のひとこと



QRコード対応のケータイ
電話でご覧いただけます。